

ワークスペースを再構築する

人間中心のワークスペースを実現する新たなアイデア

次世代のオフィス

オフィスは進化しています。

そこはもはや、単に仕事をする場所ではありません。

テクノロジーを活用して従業員同士がつながり、より生産的に働くための、物理空間とデジタル空間からなるエコシステムとなっています。

また、創造性、コラボレーション、コミュニティを活性化させるスペースの集合体でもあります。

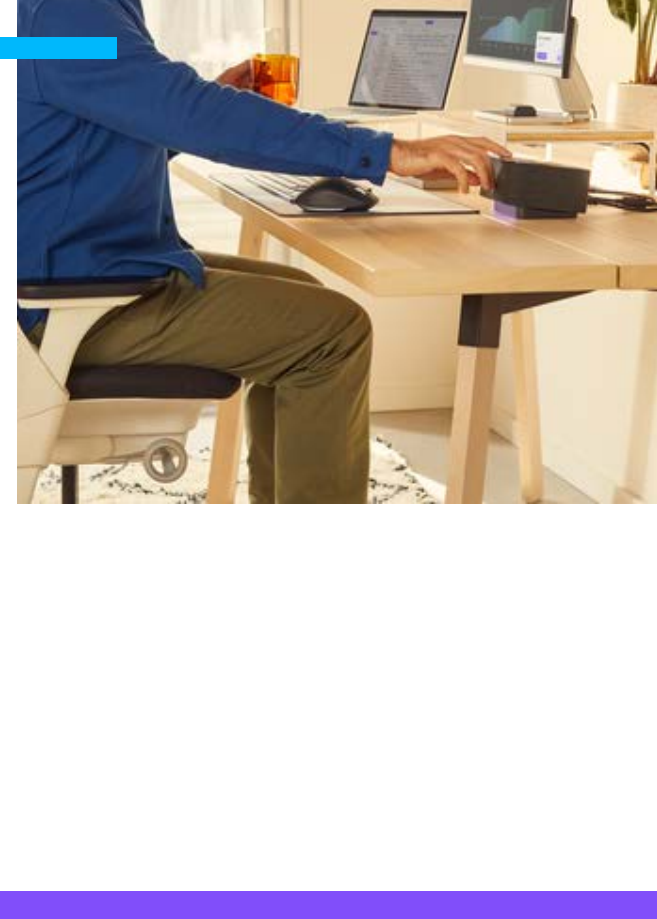
こうした新しいオフィスを創り出すカギとなるのは、変化を受け入れ、人間を中心としてスペースを設計することです。



人々が協力して働くための場。

ワークスペースの設計では、人と人とのつながりを指針とすべきです。

あらゆる会議室と、あらゆるスペースが関わります。



仕事はありとあらゆる場所で起こり得るためです。

隣接部署共有スペース



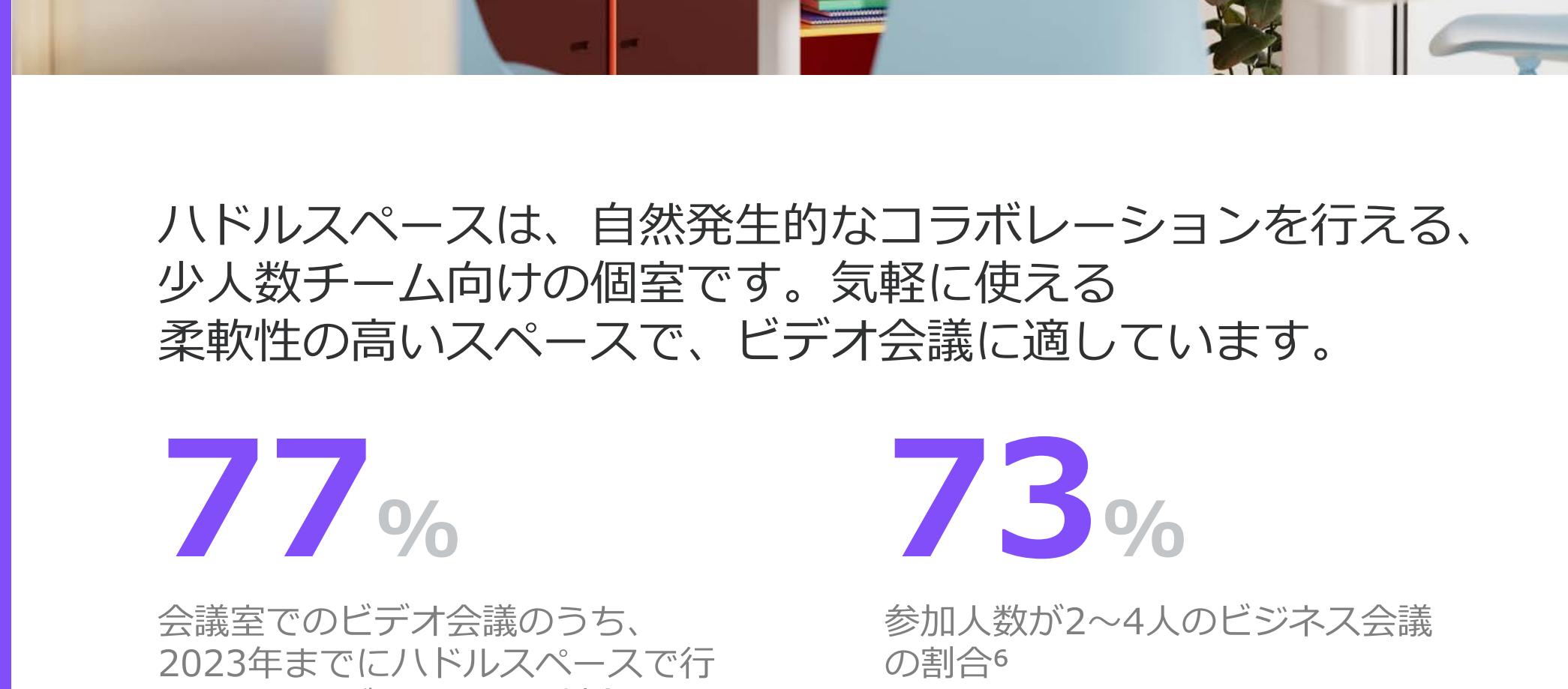
隣接部署共有スペースは活気にあふれる場所です。

こうしたスペースは、グループのコラボレーションやコミュニティを活性化し、働くことをより充実した、はるかに楽しいものにします。

87%

オフィスはチームメンバーとのコラボレーションや関係構築のために重要だと回答した従業員の割合³

ソーシャルスペース



コラボレーション、交流、オンライン会議のためのカジュアルなスペースです。

絆を深めたり、人間関係を構築したりと、出勤を有意義にする場所です。

73%

チームメンバーが出勤することがわかっていればオフィスに行く回数を増やすと回答した従業員の割合⁴

ハドルスペース



ハドルスペースは、自然発生的なコラボレーションを行える、少人数チーム向けの個室です。気軽に使える柔軟性の高いスペースで、ビデオ会議に適しています。

77%

会議室でのビデオ会議のうち、2023年までにハドルスペースで行われることが見込まれる割合⁵

73%

参加人数が2〜4人のビジネス会議の割合⁶

デスクスペース



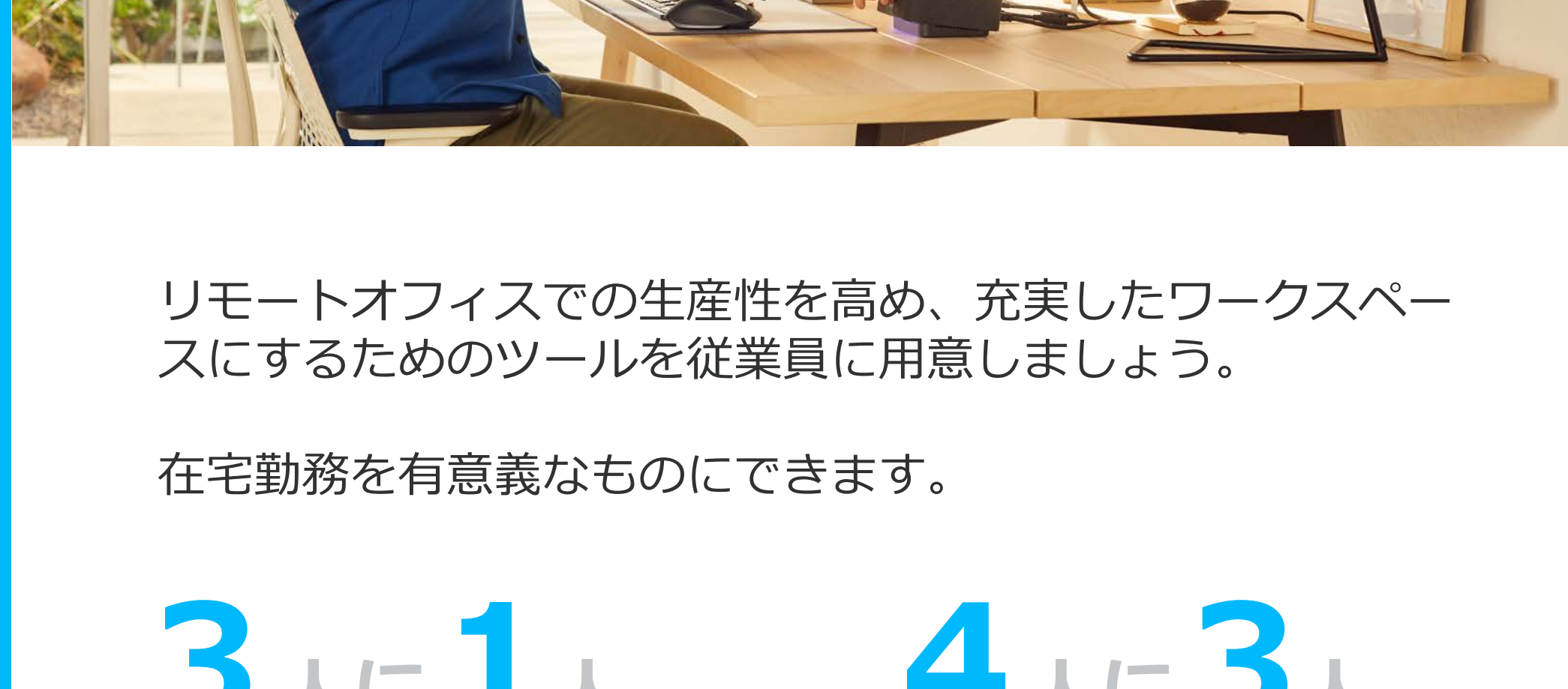
77%

柔軟な勤務形態により生産性が向上すると回答した従業員の割合⁷

ハイブリッドワークで働く従業員がオフィスに出勤する際に使用するデスクを割り当てる、フレキシブルなワークステーションです。

マネージド ドッキング ステーションを追加すると、使用するデスクをすぐに見つけることができます。デスクの予約も簡単で、同僚の近くのスペースを選ぶこともできます。また、オフィスへの出勤時に同僚に通知することも可能です。

ブレインストーミング用スペース



アイデアを生み出し、自由な創造的思考を促すインタラクティブなオープンスペースです。

ビデオ会議機器を導入すれば、より多くの従業員が会議に寄与でき、はるかに多くのアイデアを引き出すことができるようになります。

72%

オンライン会議は誰もが参加しやすいと回答した人の割合⁸

フォーカススペース



ビデオ通話に参加したり、集中して作業したり、リラックスしたりできるプライベートなスペースです。

じっくりと考えることが必要になるときもあります。そのようなときは、誰にも邪魔されない空間があると便利です。

62%

ハイブリッド会議では1人用のフォーカスルームを使用したいと回答した人の割合²

ホームオフィス



リモートオフィスでの生産性を高め、充実したワークスペースにするためのツールを従業員に用意しましょう。

在宅勤務を有意義なものにできます。

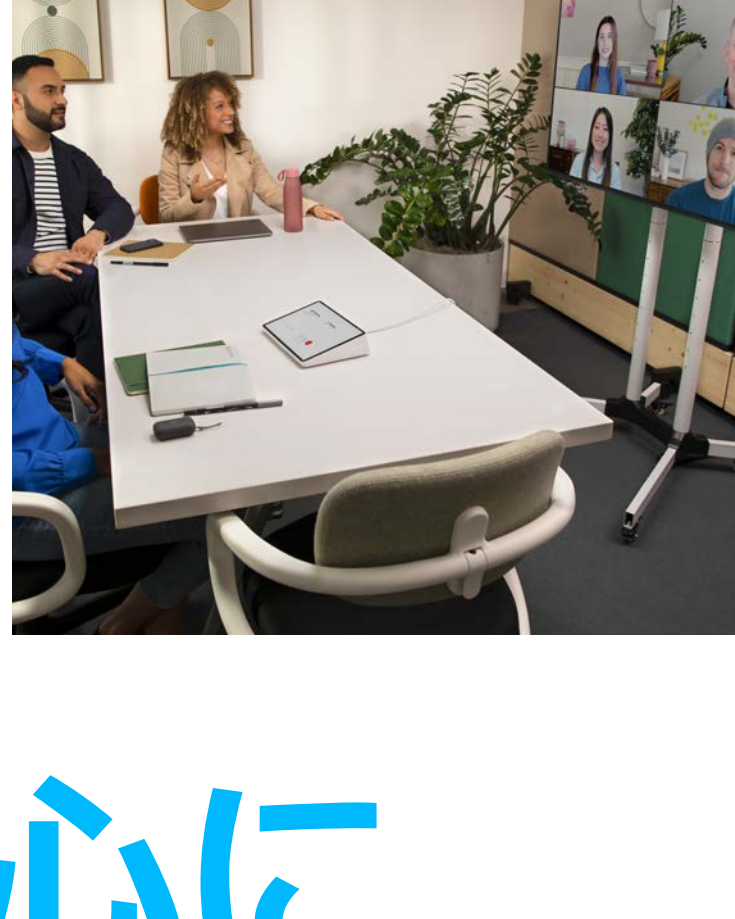
3人に1人

リモートで働くさまざまなレベルの従業員向けに、ハイブリッドモデルの導入を検討している管理職の数⁹

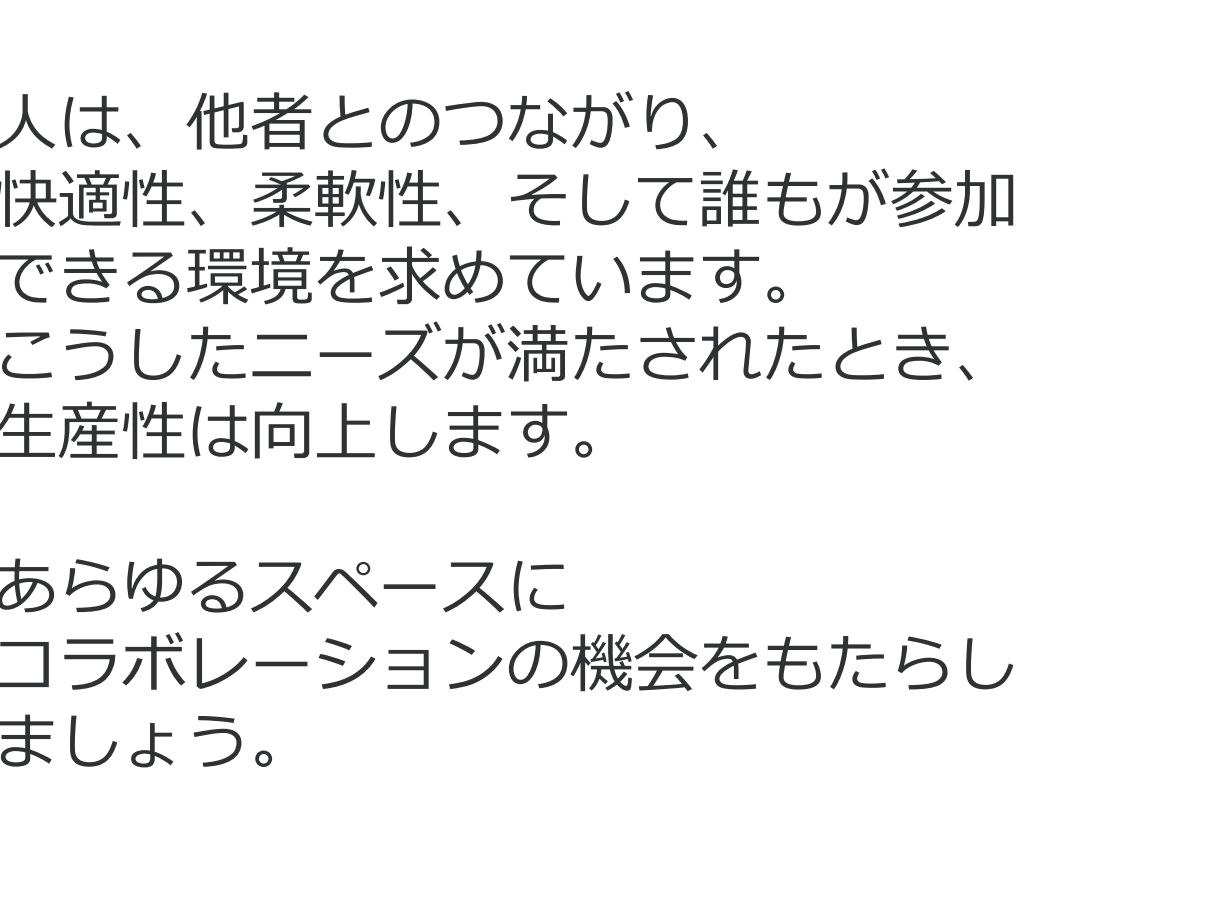
4人に3人

ホームオフィス環境に不足している機器が1つ以上あると回答した人の数¹⁰

公平な会議をどこからでも



利用する人を中心にワークスペースをデザインする。



人は、他者とのつながり、快適性、柔軟性、そして誰もが参加できる環境を求めています。こうしたニーズが満たされたとき、生産性は向上します。

あらゆるスペースにコラボレーションの機会をもたらしましょう。

あらゆる会議室に対応したビデオ会議室ソリューションの詳細はこちら：logicool.co.jp/room-solutions